

【参考資料 4】

平成 30 年度保護林モニタリング調査結果
(資料調査)

平成 30 年度保護林モニタリング調査等業務 資料調査結果一覧 (1)

保護林名	資料名	概要
①祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H25)	<p>【病虫害】 なし 【気象害】 風害(小～大)、豪雨による表層崩壊(大) 【鳥獣害】 シカ被害(中～大)、シカ被害レベル 2～4 【植物希少種】 オオヤマレンゲ、ヤシヤビシヤク、ツクシアケボノツツジ、ケイビラン、セッコクを確認 【鳥類希少種】 ・コマドリとメボソムシクイの囀りを天狗岩～祖母山周辺で確認 ・コマドリを大崩山上流瀬戸口谷で目撃 ・ルリビタキを障子岳付近の複数箇所を囀り確認 ・ホシガラスを祖母山、障子岩、傾山、大崩山で確認 ・クマタカの幼鳥を傾山で 1 個体確認 【哺乳類希少種】 ・ニホンカモシカの角研ぎ跡を確認(※本種と確定するための直接的根拠となる自動撮影カメラ写真などはない) ・キクガシラコウモリを大障子岩地域の林道トンネルで確認 【両生類希少種】ソボサンショウウオを大崩山地域の祝子川支流で確認。また、本谷山登山口でサンショウウオ類の幼生を確認。 【昆虫類】ヒメキマダラヒカゲ、ツノクロツヤムシ、キュウシュウルリクワガタ(旧ニセコルリクワガタ:近年区別)など確認。 ※ヒメキマダラヒカゲは、九州南限域の白髪岳においてシカ食害によるササ群落消失によって絶滅したと考えられている(福田ほか、2009)。 ※ウラクロシジミ(祖母山が最大の産地で食樹はマンサク)及びスジボソヤマキチョウ(祖母山が九州唯一の産地で食樹はクロウメモドキ)は未確認。</p>
	林野庁 森林生態系多様性基礎調査(第 1 期～第 3 期) [第 1 期:H11～H15, 第 2 期:H16～H20, 第 3 期:H21～H25]	該地点数 7 地点。 全 7 地点において、下層植生から高木層まで植被率に変化はないが、出現種数は減少。
	環境省 モニタリングサイト 1000 (H19～H29)	大崩山(保護林外)一般サイトにて陸生鳥類調査が実施され、ルリビタキ、センダイムシクイ、ホシガラスなどの希少種を確認。
	平成 23・24 年度九州山地カモシカ特別調査報告書	<p>【前障子】 第 1 回目特別調査が実施された約 30 年前(1988)は 1km²あたり推定密度 1 頭であったが、第 4 回目(2012)には 0 頭近くになるほどに減少。 【川上渓谷】 第 1 回目調査 1km²あたり推定密度 13 頭と高かったが、第 4 回目には 1 頭を下回るまでに減少。 【大崩山周辺】 1km²あたりの推定密度 1 頭を下回っており、すでに 1 頭を下回っていた第 3 回目調査(2003 年)から半減。 【親父山周辺】 1km²あたりの推定密度は、第 3 回目調査では 2.5 頭だったが、第 4 回目には 1 頭を下回るほどに減少。</p>
	日本野鳥の会(九州祖母山系障子岳におけるルリビタキの繁殖初確認。中村豊・稲田菊雄。Strix 23 153-158. 2005.)	障子岳においてルリビタキの繁殖が確認されている。
②男女群島生物群集保護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H22)	<p>【病虫害】 なし 【気象害】 風害 【鳥獣害】 ノネコ・クマネズミ 【植物希少種】 オオタニワタリ、マルバニッケイ、イソヤマアオキ、ミヤコジマツツラフジ、イワレンゲ、ハママンネングサ、モクレイシ、ショウベンノキ、ハマトラノオ、トウカンゾウ、コウライシバ、クワズイモ、キノクニスゲ 以上 13 種を確認</p>
	環境省 モニタリングサイト 1000 (H19～H29)	海鳥調査が実施されている。 ※伊豆諸島に属する御蔵島では、オミズナギドリをノネコが捕食し被害を与えていると報告。
	九州森林研究(Kyushu J. For. Res. No. 59 2006)	アカヒゲについて 2 回の生息密度調査が行われ、2 回目の調査では生息密度の低下が報告され、森林の攪乱やノネコとハシブトガラスの増加の影響によるものと推測(北脇ら 1989)。
	日本鳥学会誌 (58(1): p18-27, 2008)	アカヒゲの捕食者となりうる種として、男島と女島でハシブトガラスとクマネズミが、女島のみではノネコが報告されている(山口 1973, 北脇ら 1989)。ハシブトガラスは人為的に供給される餌に依存して生息数が増加し、クマネズミとノネコは人為的に移入された種であると推測。トカラ列島ではハシブトガラスおよびノネコによるアカヒゲの卵、雛、および親鳥の捕食事例が確認されており、男女群島でもアカヒゲの生息密度に影響している可能性は高い。ハシブトガラスは海岸の岩場で最大 26 羽の群れを目撃し、クマネズミを 2004 年に女島で 1 頭目撃、ノネコを 2004 年に女島で 1 頭目撃(2003, 2004, 2006 年にはそれぞれ 1～5 個の糞を確認)。

平成 30 年度保護林モニタリング調査等業務 資料調査結果一覧 (2)

保護林名	資料名	概要
③豆殿龍良山スダジイ等遺伝資源希少 個体群保護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H25)	【病虫害】・【気象害】なし 【鳥獣害】シカ被害(中・大)、シカ被害レベル2~3 【植物希少種】エビネ属、ナゴラン、ナツエビネ、ヨウラクランを確認
	その他 長崎森林管理署より聞き取り情報(H30)	【シカ捕獲頭数】対馬下島ではH25年からH28年は捕獲頭数30~50頭の間を推移。H29年に120頭近く捕獲されるも、昨年は再び減少に転じ16頭の捕獲。
④豆殿内院龍良山神崎スダジイ等希少 個体群保護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H25)	【病虫害】・【気象害】なし 【鳥獣害】シカ被害(中・大)、シカ被害レベル1~2 【植物希少種】エビネ属、タチバナ
⑤対馬白嶽アカガシ等希少個体群保護 林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H25)	【病虫害】・【気象害】なし 【鳥獣害】シカ被害(小・大)、シカ被害レベル1~2 【植物希少種】ゲンカイツツジ、シマトウヒレン、セッコクを確認
⑥英彦山スギ等遺伝資源希少個体群保 護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H22)	【病虫害】・【気象害】なし 【鳥獣害】シカ被害(中・大)、シカ被害レベル2~3
	環境省 モニタリングサイト1000(H19~H29)	一般サイトにて陸生鳥類調査が実施されている。希少種の確認はなし。
	福岡県 指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定業務報 告書(H28・H29)	【鳥獣害】低木層にはシカの不嗜好性植物であるシキミが多く、ディアラインも明瞭。全調査地点でシカの痕跡が確認され、シ カの採食圧により林床植生の衰退が進行。 【植物希少種】ヒコサンヒメシャラ、ミヤマナミキ、フウリンウメモドキを確認
福岡県 指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画基礎調査及 び評価業務報告書(H29)	相観に大きな変化は見られない。高木層形成種のブナやモミ等の実生がわずかに確認され天然更新は可能な状況だが、その確認 数は少ないことから実生から低木に生長する前にシカに採食されていると推察。 【鳥獣害】林床植生の衰退や土壌流出など、シカによる被害程度が若干進行。	
⑦犬ヶ岳ブナ等遺伝資源希少個体群保 護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H22)	【病虫害】なし 【気象害】風害(小・大) 【鳥獣害】シカ被害(大)、シカ被害レベル3
⑧柏山アカマツ遺伝資源希少個体群保 護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H25)	【病虫害】松くい虫被害(小・大) 【気象害】なし 【鳥獣害】シカ被害(小・大)、シカ被害レベル1~2
⑨白髪岳生物群集保護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H27)	【病虫害】なし 【気象害】風害(中・大) 【鳥獣害】シカ被害(大)、シカ被害レベル0~4 【植物希少種】シタキノウを確認
	環境省 自然環境保全地域等調査検討業務(2010年度)	ブナ林では低木~高木層の植被率が低く、枯木が目立つ疎林の箇所が生じており、全体的に樹冠の密度が低下。確認種数は前回 調査の1/3程度に減少し、高標高地のブナ林(シラキ-ブナ群集)では、林床植物が非常に貧弱で土壌浸食が生じつつある。一 方で、シカの不嗜好植物(コバノイシカグマ、シキミ、ミヤマシキミ、ハイノキ等)は増加傾向にある。2009年設置の獣害防止 ネット内では、スズタケやブナ等に生長回復の兆しあり。
⑩釈迦院スギ希少個体群保護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H22)	【病虫害】・【気象害】なし 【鳥獣害】なし、シカ被害レベル0 【植物希少種】ナツエビネを確認
⑪崩川内モミ等希少個体群保護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H27)	【病虫害】・【気象害】なし 【鳥獣害】シカ被害(小)、シカ被害レベル4 【植物希少種】ヤシャビジャクを確認
⑫掃部岳生物群集保護林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H22)	【病虫害】なし 【気象害】風害(小) 【鳥獣害】シカ被害(小・中)、シカ被害レベル2~3
	平成23・24年度九州山地カモシカ特別調査報告書	当保護林内での調査地点なし※保護林に近い前川林道において6年前(2012)時点で1km ² あたり推定密度0頭~1頭以下。
⑬国見山コウヤマキ等希少個体群保護 林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H26)	【病虫害】・【気象害】なし 【鳥獣害】シカ被害(大)、シカ被害レベル3 【植物希少種】コウヤマキを確認
⑭重永カヤ等遺伝資源希少個体群保護 林	林野庁 保護林モニタリング調査等業務報告書(H23)	【病虫害】・【気象害】なし 【鳥獣害】シカ被害(程度不明)、シカ被害レベル3